



HARS
SOCIETY for the STUDY of HUMAN ANIMAL RELATIONS

第24回 学術大会

平成 30 年 3 月 3 日(土)・4 日(日)

シンポジウム／口頭発表／ポスター発表

■ 会場 慶応義塾大学 日吉キャンパス
来往舎シンポジウムスペース 於
神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
・東急東横線、東急目黒線
・横浜市営地下鉄グリーンライン
「日吉駅」下車 徒歩1分

■ 大会詳細スケジュール <http://www.hars.gr.jp/taikai/24th.taikai/24thprogram.pdf>

■ 問い合わせ先 光田達矢 (慶應義塾大学) tmitsuda@keio.jp

■ 大会参加費

	事前登録	当日登録	学生	一般
学術大会費*	4000円	5000円	3000円	5000円
懇親会費	4000円	5000円	2000円	5000円

* 2日間。1日のみの参加でも、金額は同じです

* 塾生・塾内教職員：参加費無料

* 地域住民の方はシンポジウム (3/3 14:30~17:30) の参加費は無料となります

3月3日(土)

14:30~17:30

シンポジウム

「鳥と人間の関係と課題」

3月3日(土)・4日(日)

口頭発表・ポスター発表

Topics ▷アニマルセラピー (動物介在療法・活動・教育)

▷野生動物

▷動物行動・伴侶動物

▷動物と人の福祉

▷動物観

▷ヒトと動物の歴史・文化・思想

「鳥のように」とは、世界で、あらゆる時代での、多くの人のおこがれの表象だった。

日本人と鳥のアンビバレンツな関係を、鳥の飼育が普及した近世から、科学としての「鳥学」が発達した近代、もはやアニメやゲームのなかだけで子供たちが鳥に接触する現代から近未来まで、2人のパネリストとともに、歴史的に概観し、鳥も「動物の一グループ」として、私たちとのあるべき関係を考えるきっかけとしたい。

奥野 卓司 関西学院大学社会学部・(公財)山階鳥類研究所

「あんな、鳥のなんなのさ・・・日本人と鳥の関係をめぐって」

細川 博昭 ノンフィクション作家

「飼い鳥」を鍵に、鳥と日本人の関係史を辿ってみる

—江戸のペットブームの中核に位置した飼い鳥—

鶴見 みや古 (公財)山階鳥類研究所コレクションディレクター

鳥と人との関係を考える

—明治から昭和にかけて—